

温泉付き集会所の建設工事始まる

二井田市民集会所

二井田市民集会所の建設が、今月九日から始まりました。この集会所は、二井田達子森スキー場近くに建設され、研修や諸会合に利用できるほか、温泉に入って保養もできる市民集会所となります。完成は来年三月の予定となっています。

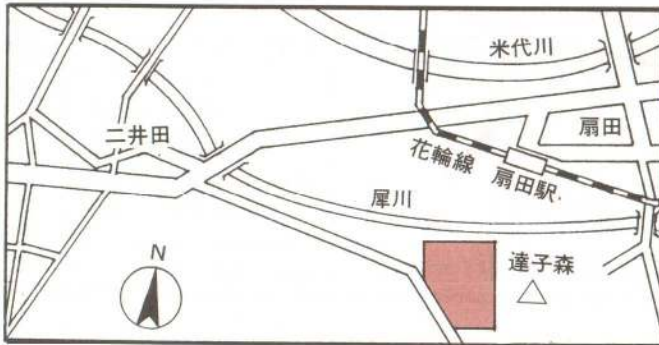
市では、若年労働力の流出防止、地域経済の活性化などを旨として工業の振興、とりわけ企業誘致対策に力を注いできました。こうした中で、昭和四十九年に二井田地内へ「大館工業団地」を造成し、

現在五社が操業、約七百人が就業しています。かねてより、「大館工業団地」内の企業や二井田地区住民から、諸会合やレクリエーション、従業員の研修、サークル活動のできる

施設の建設が望まれていました。こうした中で、同地区達子森スキー場近くに温泉が湧き出したことから、これを利用した風呂付きの施設として二井田市民集会所を建設することになり、現在工事が進められています。

ゆつくりくつろげる集会所

市民集会所は、木造一部鉄筋コンクリート造平屋建て、五百四十



平面図



▲9日行われた起工式

七平方メートル、本体工事費約九千三百万円で建設されます。

同集会所には、約八十人の会議や研修の場として利用できる会議室、十人から二十人ぐらいの会議や研修のできる研修室三室、会議や研修の疲れをいやしたり、地域住民を含めたコミュニケーションの場として利用できる浴室、調理室、休憩室などが造られ、ゆつくりくつろぐことができます。

この集会所は、今月九日から工事が始まり、来年三月完成の予定となっています。工事中は、付近の方々に迷惑をおかけすると思いますが、ご協力をお願いいたします。完成後は、近くに達子森スキー場があることから、冬期にはスキーを兼ねた研修会に利用したり、温泉保養と合わせた研修・コミュニケーションの場としてなど、幅広くご利用いただけることと思います。

市長の対話ノート



No.162

郷土に誇りと自信を

「重厚長大」から「軽薄短小」への転換を言い、「世界一の黒字国、もはや外から学ぶものはない」という不安とおごりが同居しているのが今の日本の経済界のような気がします。常に「学び」「切磋琢磨」するのが人間であり、この不況の中で生き残るための条件でもあります。長い長い不況の中で大館でその努力はどう具現しているだろうか。それを市民はどう評価するのか、その場所が「第八回郷土品まつり」であります。

「遠くの神様」とか「隣の芝生」と言わずとも、郷土にも逸品がいっぱいあります。現に「曲げわっぱ」「桶樽」の二つが伝統的工芸品の指定を受け、内容も著しく充実しています。一市で二つの指定を受けているところは希であります。昨年五月の東京サミットの帰り、イギリスのサッチャー首相が曲げわっぱを土産にしたそうです。何も曲げわっぱに限った事ではありませんが、もっと郷土に誇りと自信をもたなければと思えてなりません。(かと言って、自信をおごりと間違えられたら困ります。)

郷土品まつりで市民の暖かい、建設的な批評を加え、それに応え完成を目指し、さらに市民が愛用し他へ広める。これこそ相乗的な活性化への道を開くことになるものと信じています。

伊藤健治